

水痘とおたふくかぜワクチン

# 公費助成を要望

にど市な吉倉市医師会

岡本会長、松田会長が倉吉市役所を訪れ、石田耕太郎市長に要望書を手渡した。

平成23. 10. 4

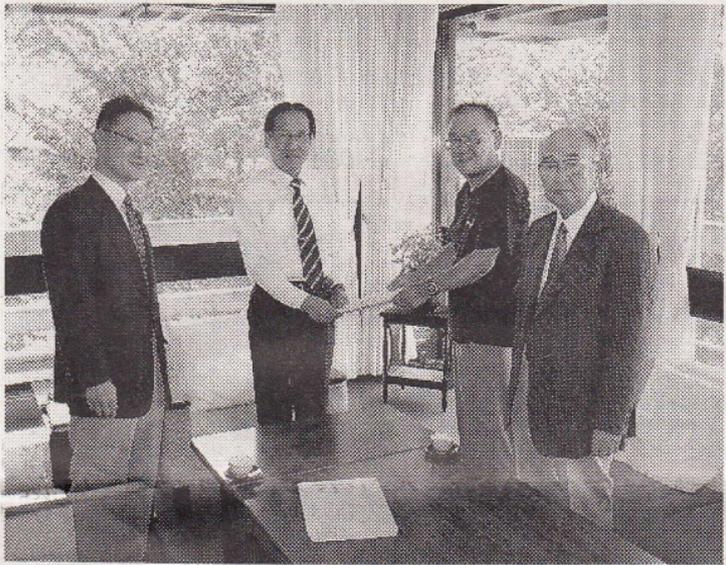
鳥取県中部医師会 (池田宣之会長) と、

県中部地区乳幼児保健協議会(岡本博文会長) 県中部小児科医学会(松田隆会長)は9月28日、倉吉市に水痘とおたふくかぜのワクチン接種を公費助成するよう要望した。

水痘とおたふくかぜは毎年流行し、特におたふくかぜは4月以降、中部地区で大流行し、いまだに終息していない。両疾患ともワクチン接種で発症や症状の悪化を抑えることができるが、高額な上、全額自己負担の任意接種となっているため、接種率が低いという。

こうした状況を受け、3団体は「ワクチン接種で水痘とおたふくかぜの流行が抑えられ、結果的に医療費も減少する」として公費助成を要望。池田会長、

県内では智頭町がすでに公費助成を行っているといい、3団体は、倉吉市以外の県中部の4町にも同じ要望書を提出することになっている。



石田市長（左から2人目）に要望書を手渡す池田会長（同3人目）ら